交配相談サービス 実施レポート

～交配相談を通した牛づくりの第1歩目～

ジェネティクス北海道は、2009年より交配相談サービスを提供させていただいております。今年度でサービス開始から5年目を迎え、交配相談による推奨種雄牛で娘牛が生産され、さらにその娘牛が分娩を始めたという声が聞かれます。今回は、平川牧場（せたな町）の経営主である平川賢一さんに交配相談を始めたきっかけとその後の変化について伺いましたのでレポートいたします。



平川牧場（せたな町）

北海道の南西部、日本海に面した檜山支庁管内の北部に位置する“せたな町”は、平成17年に北檜山町、瀬棚町、大成町が合併して誕生しました。北は島牧村、東は今金町、南は八雲町、西は日本海をはさんで奥尻島をのぞみます。

せたな町HP：http://www.town.setana.lg.jp/

1 平川牧場の概況について教えて下さい。

当牧場は、2010年4月に新規就農して、経産牛20頭、未経産牛10頭で牧場をスタートいたしました。現在は、経産牛33頭、未経産牛20頭となり、1頭当たりの検定乳量の平均は、30.0kg/日です。



今回お話を伺った平川賢一さん

2 交配相談をどのようなきっかけで始めたのですか?

就農当時は、1頭ずつ雌牛の特徴を見ながら授精する種雄牛を決めていました。

しかし、牛群全体の牛づくりの方向性、血統情報や近交係数を十分に考慮していなかったために不安がありました。何か解決方法はないかと考えていたところ、ジェネティクス北海道の機関紙『SIRE』で、無料で交配相談サービスを利用できることを知り始めることにしました。

3 交配相談の結果をどのように活用していますか?

～平川牧場における交配相談の活用法～

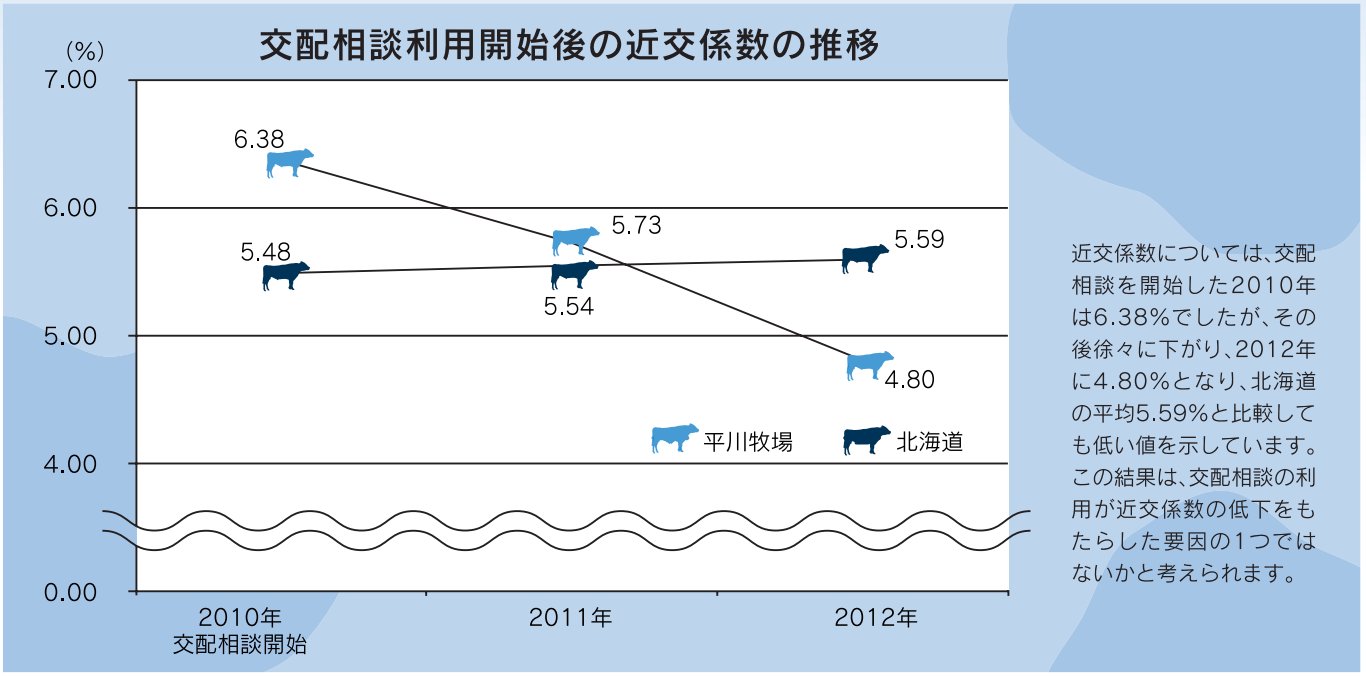
①授精する種雄牛を決める際の参考に活用

（産乳形質と体型形質をバランス良く改良していくことを目標として、第1形質を総合指数（NTP）、第2形質を乳器に設定しました）

②近交係数の上限値を6.25％に設定して急上昇の抑制に活用

③ 遺伝病発症の抑制に活用

（遺伝病保因牛同士の交配を避ける機能を設定しました）



近交係数については、交配相談を開始した2010年は6.38%でしたが、その後徐々に下がり、2012年に4.80%となり、北海道の平均5.59%と比較しても低い値を示しています。この結果は、交配相談の利用が近交係数の低下をもたらした要因の1つではないかと考えられます。

4 今後の牛づくりの方向性について教えて下さい。

長命連産性と産乳能力の高い牛づくりをしていきたいと考えています。また、新規就農のため、牛群の大半を導入牛が占めているので、牛群に斉一性が見られず、産乳能力も個体間でバラつきがあり、今後も交配相談を継続して斉一性のある牛群にしていきたいと考えております。

今回は平川牧場の経営主である平川賢一さんに、交配相談を始めたきっかけとその後の変化についてお話をお聞きしました。平川さんが交配相談を通して牧場の今後の基礎となる牛づくりに対する意気込みをお伺して交配相談が担う重要な役割について身が引き締まる思いを感じました。

牛群改良の成果が表れるのは長い時間を要します。当団も交配相談を通してみなさんの乳牛改良のお手伝いをさせて頂きたいと思います。

大変お忙しい中、取材にご協力頂いた平川牧場の平川賢一さんに心から感謝申し上げます。今回頂きました貴重なご意見を活かし、皆さんが継続して乳牛改良に取り組めるように、より良い交配相談サービスを提供していきますので、どんどんご利用して下さい。



交配相談で産まれた雌牛と平川さん